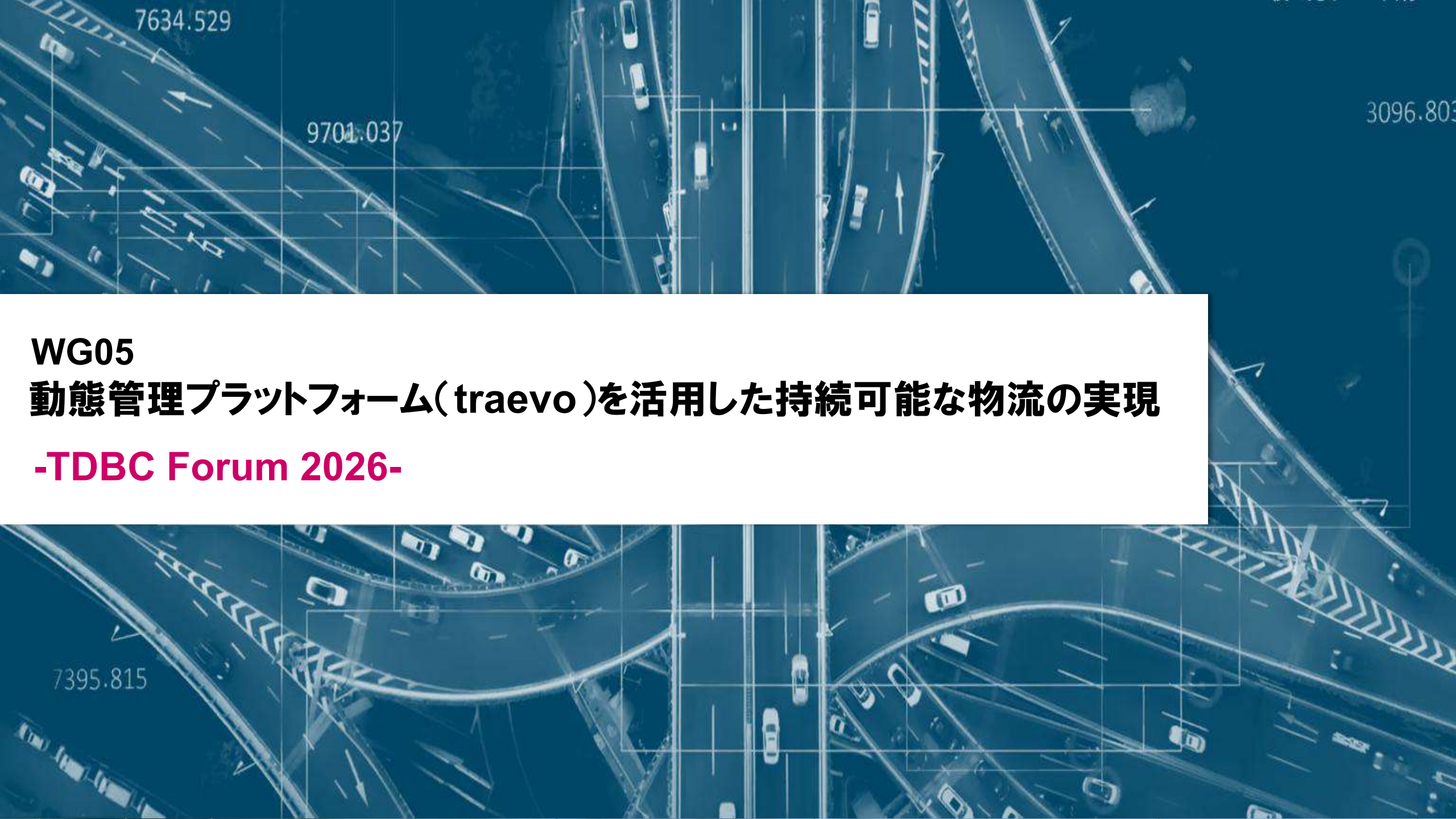




WG05

動態管理プラットフォーム(traevo)を活用した持続可能な物流の実現

-TDBC Forum 2026-

WG05 全体テーマ

動態管理プラットフォーム(traevo)を活用した持続可能な物流の実現

全体リーダー:(株)首都圏物流 駒形 友章

【WG05A】共同輸送ユニバーサルシステム

実車率
向上

「traevo noWa」活用分科会

リーダー:AGC(株) 高橋 雄太氏

【WG05B】動態管理プラットフォームを活用した 積載効率の改善とカーボンニュートラルの実現

積載効率
向上の可視化

リーダー:(株)アスア 間地 寛氏

【WG05C】持続可能な農業を実現するための青果物流の課題解決

積載率
向上

リーダー:イーサポートリンク(株) 石井 崇博氏



WG05A

動態管理プラットフォーム（traevo）を活用した持続可能な物流の実現

-TDBC Forum2026-

01 / WG05 テーマ

02 / WG05 構成メンバー

03 / traevo noWa 活動振り返り

04 / 新たな取り組みとして_traevo noWa

05 / 新たな取り組みとして_Logi-Nexus

06 / 最後に



動態管理プラットフォーム（traevo）を活用した持続可能な物流の実現

全体リーダー：（株）首都圏物流 駒形 友章

【WG05A】 共同輸送ユニバーサルシステム

「traevo noWa」活用分科会

リーダー：AGC（株）高橋 雄太

- 輸送力不足による需給逼迫に対して、共同輸送ユニバーサルシステム「[traevo noWa](#)」を活用した積載効率向上と環境負荷低減を推進し、その先のフィジカルインターネットを目指す。



(順不同)

事業者会員

12社

1	梅田運輸倉庫株式会社
2	三興物流株式会社
3	株式会社首都圏物流
4	鈴与カーゴネット株式会社
5	中部興産株式会社
6	東洋運輸株式会社
7	トランコム株式会社
8	富山県トラック株式会社
9	野原グループ株式会社
10	サントリーロジスティクス株式会社
11	一般社団法人フィジカルインターネットセンター
12	佐藤運輸倉庫株式会社

パートナーシップ会員

8社

1	AGC株式会社
2	株式会社ブリヂストン
3	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社
4	ヤンマーロジスティクス株式会社
5	大王製紙株式会社
6	ダイオーロジスティクス株式会社
7	株式会社ニッポン
8	株式会社明電舎

サポート会員

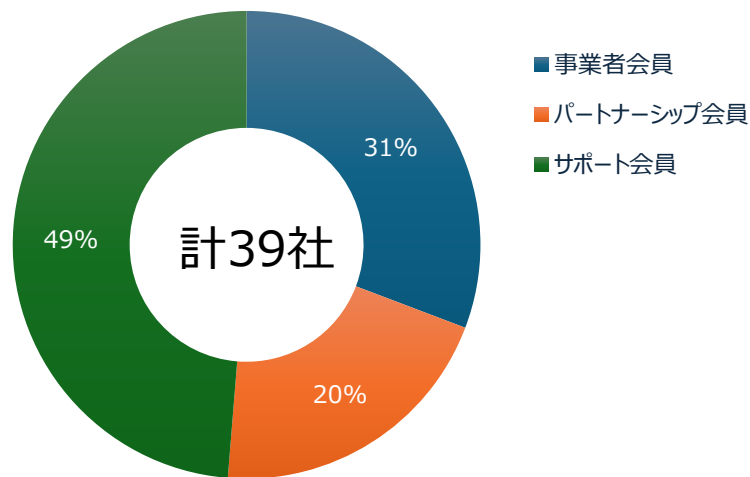
19社

1	イーサポートリンク株式会社
2	SCSK株式会社
3	SCCCリアルタイム経営推進協議会
4	NSW株式会社
5	オリックス自動車株式会社
6	株式会社グローバルワイズ
7	JFE商事エレクトロニクス株式会社
8	株式会社デンソー
9	株式会社デンソーソリューション
10	株式会社パトライト
11	物流企画サポート株式会社
12	三井住友海上火災保険株式会社
13	株式会社ライナロジクス
14	LocationMind株式会社
15	株式会社LOKIAR
16	都築電気株式会社
17	株式会社マーキュリアインベストメント
18	フィン・バイ・テック コンサルティング
19	東京海上スマートモビリティ株式会社

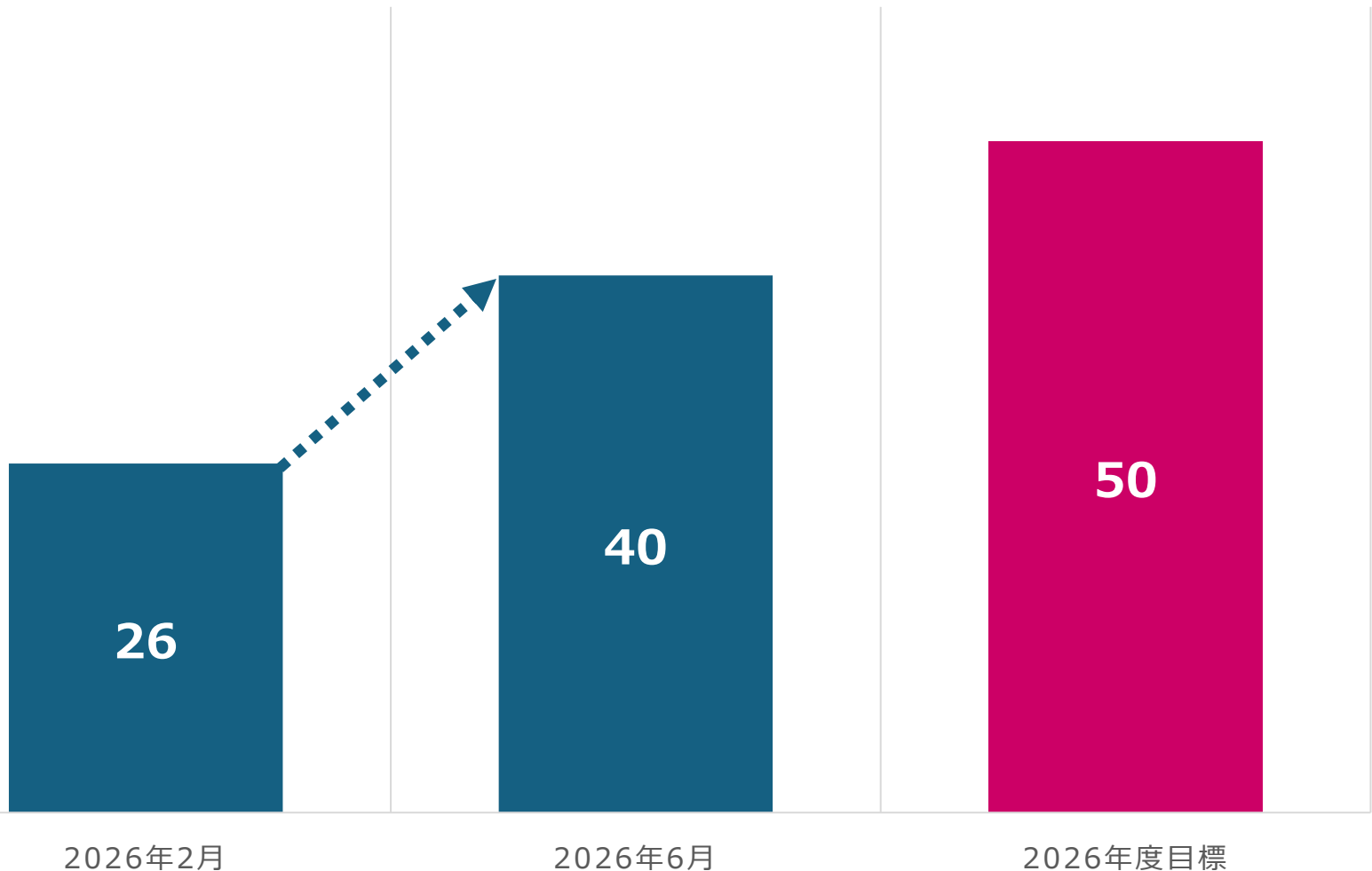


□ 構成メンバー比率と利用社数状況

05A_構成メンバー



利用社数



- ユーザー数増も、目標値には未達見込
- 新たな取り組みを経て、引き続き利用社数増を目指す



traevo noWa システム改修

- ✓ **ルート追加リマインド機能**：新規での通知希望ルート登録があった際にメール通知
- ✓ **未回答リマインド機能**：月末時点での未回答があった際にリマインドメール通知
- ✓ **問合せ・エラー報告**：お問い合わせ選択から、フリーフォームでの問い合わせ

- ❑ ユーザー要望を取り入れた、システムの利便性向上
- ❑ 既存利用者、並びに利用検討者の要望も踏まえ、今後も適宜改修を継続



各種コミュニケーション・会合

- ✓ 2025年11月：パートナーシップ会員（株式会社ブリヂストン）主催の、**物流効率化法**に関する情報交換会を開催
- ✓ 2026年2月：AGC参画の物流共同化分科会にて、共同輸送プラットフォームのシステム紹介
- ✓ 2026年3月：荷主企業9社による**物流効率化法、適正原価**に関する情報交換会開催

- ❑ 荷主企業を中心とした各種法対応を主題とした情報交換会を開催
- ❑ “共同輸送”をきっかけとしたネットワークの構築



その他成果（表彰関係）

- ✓ 2025年度 JILSロジスティクス大賞
- ✓ 経済産業省 ウラノス・エコシステム先導プロジェクト選定
- ✓ 第8回 日本オープンイノベーション大賞国土交通大臣賞
- ✓ フィジカルインターネットアワード2026 社会実装部門 奨励賞



✓ 物流DX未来会議 AFTER ACTION

5/21 THU. 9:50 - 10:30

誰が「共同輸送」の相手を探すのか？ 荷主の“孤独と連帯”が生んだマッチング基盤

「共同輸送」の必要性が叫ばれる一方で、「条件に合う相手を探し出す絶望的な労力」に疲弊し、孤立する荷主も少なくない。この孤独な闘いに終止符を打つべく、AGCが発起人となり50社以上の同志と痛みを共有しながら誕生させたのが、ロジスティクス大賞を受賞した「traevo noWa」だ。

「荷姿は入力しない」「マッチングまで匿名」。常識破りのシステムはいかにして生まれたのか――。

一方で、平時を前提に構築される共同輸送は、ホルムズ海峡危機のような「有事」の連続によって容易に瓦解するリスクを孕む。この脆弱性に、荷主発のプラットフォームはどう立ち向かうのか。共同輸送の真価と、次世代インフラの核心に迫る。



鈴木久夫
株式会社traevo 代表取締役社長
一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会理事



高橋雄太
AGC株式会社
調達・ロジスティクス部
ロジスティクス管理室 事業推進グループ



鶴岡昇平
LOGISTICS TODAY株式会社
編集局 副局長

□ 各種表彰やイベントを介してtraevo noWaの
広告・宣伝を推進



直近の共同輸送取り組み事例（AGCのみ）

✓ CASE.1 荷主企業との往復輸送

関東～九州間のセミトレ（RORO船）の往復化



1. traevo noWa経由で上記と異なる共同輸送オファーあり（青森⇔関東）
2. 先方とのコミュニケーションを経て、上記ルートの共同化できないか検討開始。
※両社ともにRORO船輸送
3. RORO船業者を交えながら輸送スケジュール草案を作成
4. 両社起用の輸送業者と確認もコストメリット生み出せず断念...

- ❑ traevo noWaきっかけの共同輸送検討案件
- ❑ 実現せずとも、同社とのコミュニケーションは継続

✓ CASE.2 物流子会社との往復輸送

中京～九州間のウイング、セミトレの往復化



1. 当社：福岡向け満載輸送（緩和車、トレーラー）、先方：愛知向け空載（緩和車、トレーラー）の輸送マッチングオファー
※当社の方が輸送頻度多
2. 先方便活用を前提に検討。輸送品質、リードタイムの影響精査
3. 往復輸送化についてコストメリットあり、実現に向け関係者協議中

- ❑ 当社荷量を活用した共同輸送により、先方課題の解決を支援
- ❑ 当案件以外の輸送ルートについても開拓中

□ 中間報告資料より...

物流を取り巻く変化（物効法、トラック新法、労働力、災害、燃料・運賃、市況・・・）が大きい中、荷主や物流事業者が求めるものは、

- ✓ 法対応・監査対応を“落とさない”（Compliance）
- ✓ 供給途絶や制約下においても“回し続ける”（Resilience）
- ✓ 制約（人・車・時間）の中での“安定運用”（Logistics strength）

【従来の価値】



実行の共同化

+

【新たな価値】

法や行政対応＝実装（準備と運用）の共同化
※運用知・ルール・型の共同保有

● 制度対応を各社の“苦勞”から“共通資産”へ

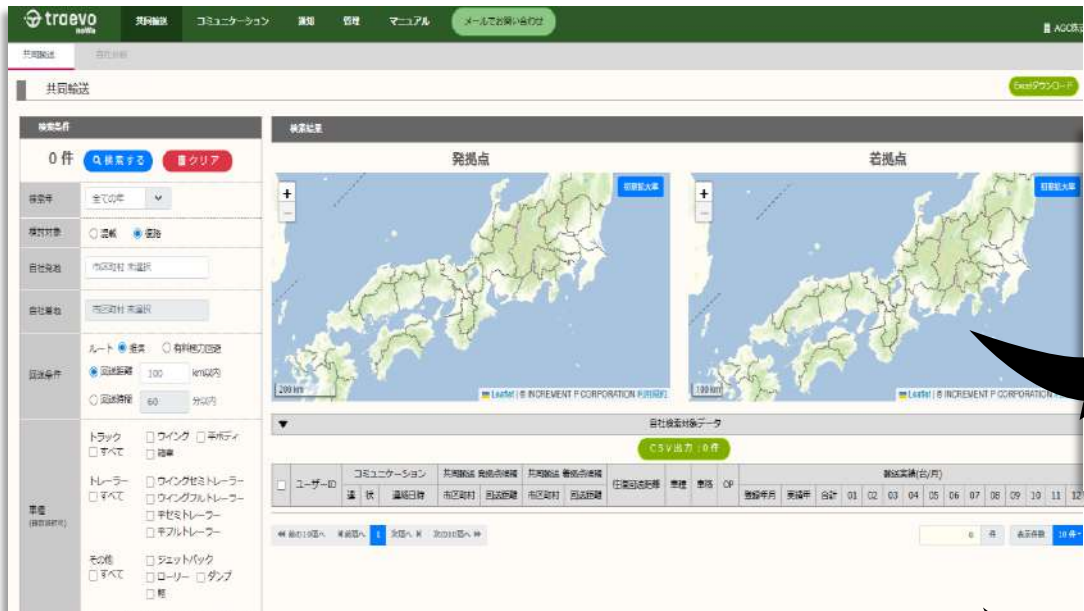
● 変化に追われるのではなく、変化に強い型を皆で作る

● 法・行政対応の実装知を共同化し、対応工数と不確実性の最小化

● 物流を止めないための“実装プレイブック”を共創

★ traevo noWaの価値領域の拡張

- ✓ 現状は、ユーザーの輸送実績データを投入し、マッチング候補を探す。
- ✓ 投入データはユーザー任意のデータ（投入データの全体感や投入意図までは汲み取れない）



<混載> でマッチングを探す場合

発地周辺他社データ + 着地周辺他社データ による**片道混載マッチング候補**を検索



<復路> でマッチングを探す場合

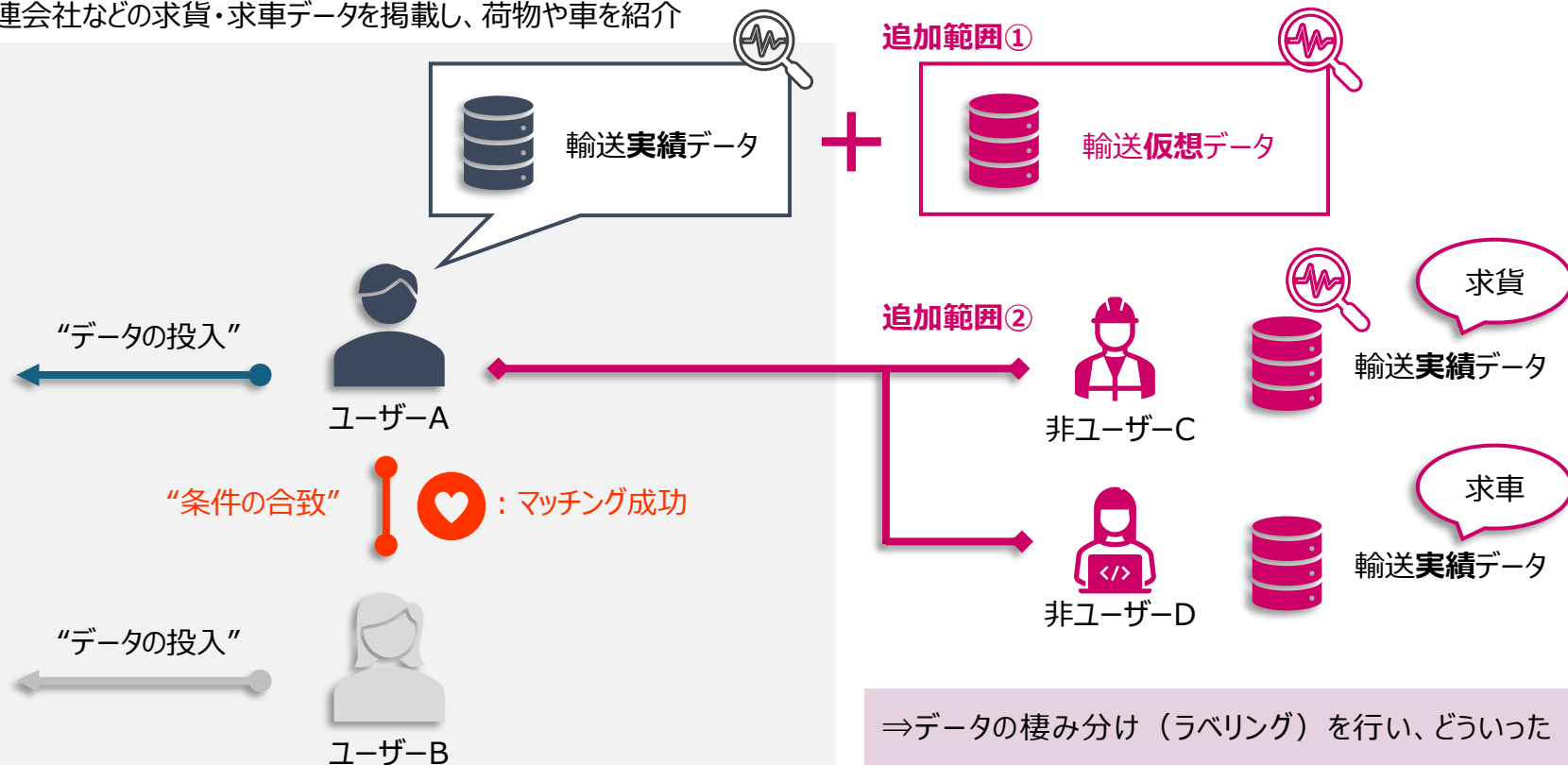
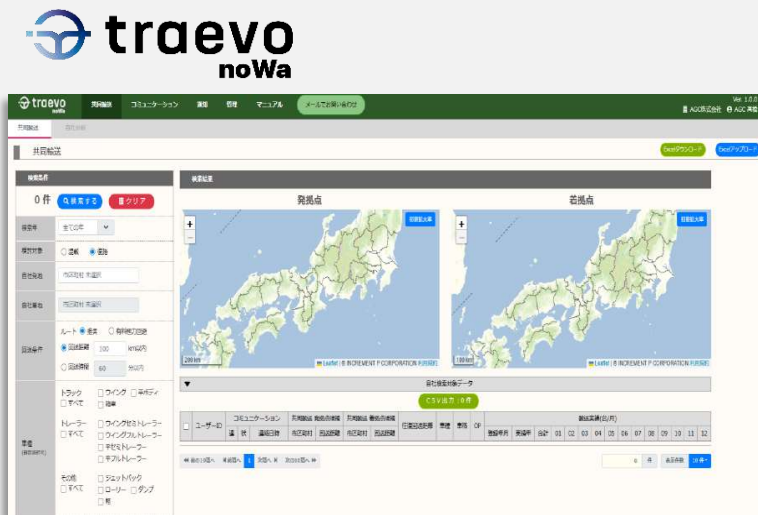
着地周辺他社データ + 発地他社データ による**往復輸送マッチング候補**を検索



★ traevo noWaの価値領域の拡張

- ✓ **追加①** : ○○から□□への輸送ルートを検討 など、実績はないものの、今後輸送を検討しているルートに対しての中長期的な求貨・求車仮想データの投入
- ✓ **追加②** : ユーザー管轄のデータに加え、輸送業者や関連会社などの求貨・求車データを掲載し、荷物や車を紹介

<現行範囲>



⇒データの棲み分け（ラベリング）を行い、こういったデータなのかを明確にすることで、より広範囲の共同輸送実現に向けたプラットフォームに！
 ∴データラベル（区分）を新たに設定

✓ **追加③**：自社分析 地域別台数データから、「共同輸送」のようなビジュアルに変更し、自社データ内での共同輸送化検討プラットフォームに機能拡充

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

- 個別企業の知見が結びつき、物流の新しい核心（スタンダード）を作り出す場として、有志企業による新しい活動体（2026年4月より）
- 参加企業（想定） ①AGC ②B社 ③N社 ④TY社 ⑤KJ社 ⑥KY社 ⑦F社 の計7社



- ✓ Nexus : （結合、結節点） 一社に閉じていた知見を繋ぎ合わせ、業界を超えた新しい標準を創出
- ✓ Next : （次のステージへ） 慣習に縛られない次世代構想を目指し、次なるステージへ
- ✓ Us : （私たちの手で） 自分たちが主役となり、主体的に変革を起こしていく

➤ traevo noWaは、「仕組み」 Logi-Nexusは、「人と知見のコミュニティ」

<取り組み検討中>



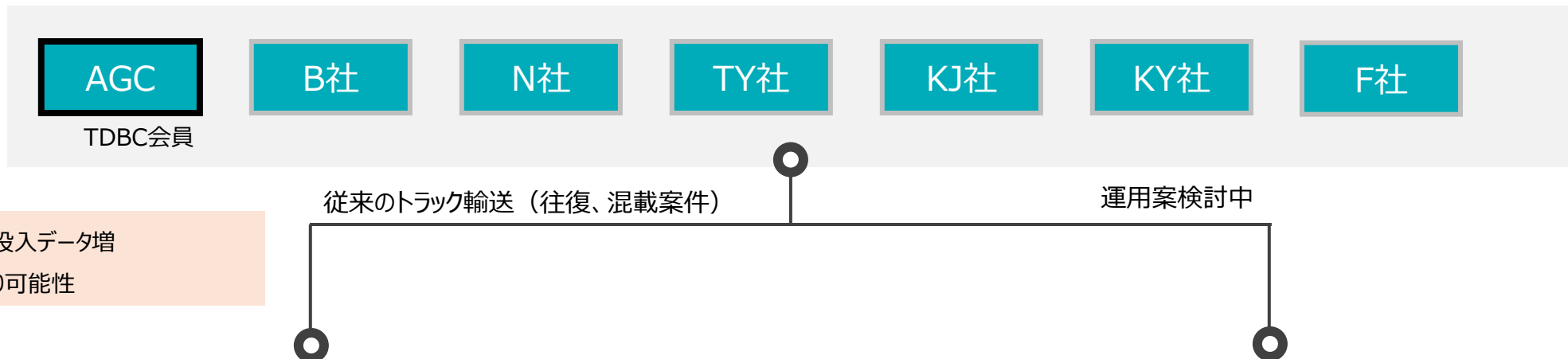
a. 共同輸送研究会



b. ロジスティクス能力見える化

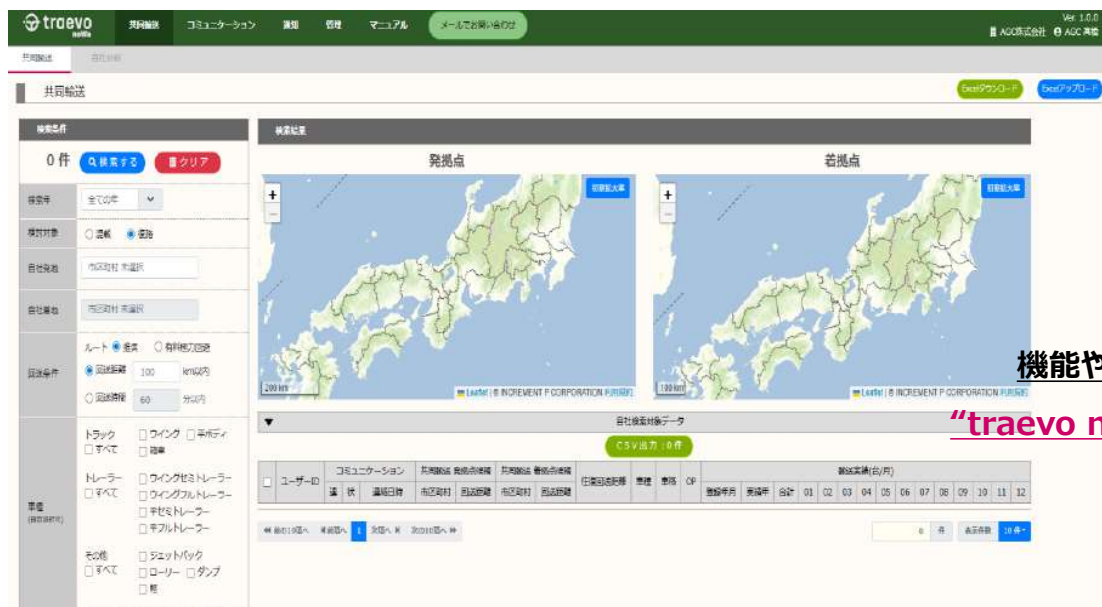
c. 法対応情報交換会

a. 共同輸送研究会



- ✓ 会員数増 + 投入データ増
- ✓ 他会員との繋がり可能性

<traevo noWa>



“traevo noWaへのフィードバック”

Case.1 鉄道輸送ネットワークの見える化・共同化

- ・ 参加企業7社と鉄道輸送（モーダルシフト）のコラボレーション画策
- ・ レールルート別の貨物情報を開示の上、輸送業者と協業
- ・ 31ftコンテナの共同利活用の検討（荷主所有）

Case.2 RORO船共同輸送（シャーシ共同利用）

- ・ 各社の利用状況（ルートや頻度）を摺合せ
- ・ 同地域に関する往復輸送の検討
- ・ 共同シャーシなどの利活用なども併せて検討

b. ロジスティクス能力見える化

A) 横軸（要素）を“能力（ケイパビリティ）”＝成果を再現できる仕組み

B) 全社的な能力ではなく、ロジスティクス部門に限った能力評価

C) 企業間比較を「主観」から「共通言語」に寄せるため、横軸ごとに成熟度（0～4）を置くのが効果的と考察

0：未整備（担当依存、都度対応）

1：部分整備（拠点ごとにバラバラ）

2：標準あり（標準はあるが運用ばらつき）

3：運用定着（KPI管理・改善が回る）

4：高度化（最適化・自動化・他社展開できる型）

大分類	中分類	AGC	備考・コメント（理由、課題など）	KJ社	KY社	TY社	N社	F社	BS
戦略・設計	1 物流戦略・方針の明確さ	3	全社、事業部、拠点とそれぞれ方針あり。意思決定基準もあり。但し、拠点との権限分掌については、曖昧な部分あり（構築に向けてワークしているところ）						
	2 ネットワーク設計力	3	拠点や事業部ごとに設計が主。本社と拠点、事業間連携などなどは希薄。						
	3 標準化・ルール設計力	2	標準化（ナレッジマネジメント含む）推進も、まだまだ属人的業務が多い。						
計画・需給	4 需給連携・計画精度	3	一定の生産性、効率性はあるものの、基本的には属人的業務。ロジスティクス部門全体としては弱い（特定の拠点のみ生産計画業務あり）						
	5 在庫・倉庫運用設計力	1	事業や拠点別に異なるため主体は拠点。						
実行	6 輸送運用の現場力	1	基本的には拠点人員にてアナログ対応。また、同じ事業でも、拠点が異なるとやり方が異なるなどあり。ナレッジマネジメントの一端で標準化は進めている。※人に依存した現場力としては相当強い						
	7 構内物流の設計・改善力	1	事業、拠点ごとにルール含め全くとことから事業や拠点別で管理。全社的な管理や、専門部隊などはなく、最終的には拠点人員の力量やモチベーションに因る。						
	8 包装・荷姿設計（包装容器含む）	0	特定の人員のみ知識あり。ロジスティクス所管には知識・ノウハウなく、設備技術部門などに依存度が高い。						
コスト・契約・外注統制	9 物流費の可視化	1	事業や拠点ごとに視点が異なり、コストセンターとしての位置づけも異なる。コストセンターとしてのアプローチからのアプローチによるコスト削減活動などもあるものの、コスト削減活動は全社的な予算方針はあるものの、予算策定まではしていない。予算策定の根拠や背景、それに付随した実際の宣定に対する考え方なども本年整備を進めている。						
	10 予算管理・差異分析の型	3	（物流子会社時代の）独自の宣定方式（原価積み上げ）あり、広く浸透はしているものの、システム化までは至っていない（Excel管理レベル）						
	11 運賃・料率・契約ガバナンス	3	主要BP診断、品質安全に関する定期会合などのコミュニケーションは全拠点あり。但し、現場レベルでみると主要BPの実権が大きく、新規BPを導入するモチベーションは低い。						
	12 外注管理（協力会社マネジメント）	3	各事業ごとに若干異なるものの、原因と再発防止策検討（昨年刷新）。当件に関する改善活動なども行われ、BP社にも影響している。						
品質・安全・法務・リスク	13 物流品質安全（破損・誤出荷・クレーム）管理力	4	コンプライアンスについてはAGCグループ共通に基づく。定期的な教育等もあり。但し物流、ロジスティクスに関する法対応（知識・コネクション含め）は専門部隊無く脆弱（会社としての法務はあり）。						
	14 コンプライアンス（法規含む）	2	サイバー攻撃に備えた対応準備など部分的に進めているものの、事業部が主体。有事の際の緊急車両通行許可について管理を始めている。						
	15 レジリエンス/BCP・リスク対応力	1	ロジスティクス部門内に、技術部門あり。各事業や拠点単位で、個別に改善を進めている。共通システムの構築などを進めている。完案等は拠点含めた人への依存傾向あり。						
デジタル・データ（DX）	16 DX/データ活用（見える化→予測→最適化）	3							

各社の能力を数値で見える化（強み/弱み）



強い会社（の数値）に近づけるための活動テーマアップ



互いに利益を享受する仕組み作りに



- ✓ 共同輸送を身近にする輸送会社、荷主企業向けのサービス
- ✓ 利便性・匿名性・低価格

⇒実輸送データをベースとした 混載 & 往復化 を主軸とした共同輸送プラットフォーム



【2027年活動領域】

価値領域の拡張

- ✓ 既存ユーザーの利用価値向上、価値深化
- ✓ ターゲット拡大（新規ユーザーの獲得）

Logi-Nexus



- ✓ 荷主視点の共同化、情報資産の共有
- ✓ バーゲニングパワーを活用した新たな取り組み

荷主・物流事業者・モーダルを繋ぐ共通基盤へ

“traevo noWa”を活用し、共に フィジカルインターネット推進を目指しませんか

traevo noWa への参加

実輸送データ(From-to 市区町村、車種・車格毎の月間輸送台数)を保有し、
共同輸送に関心をお持ちの会社様

traevo noWa とのデータ連携

traevo noWaとの連携によるシナジーを検討していただけるサービスをお持ちの会社様

お問合せはTDBC事務局(unyu.co@wingarc.com)まで



一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会

<https://tdbc.or.jp/>

unyu.co@wingarc.com

03-5962-7370

協議会スポンサー

